

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790300018		
法人名	有限会社 介護サービスセンター前原		
事業所名	グループホーム喜楽		
所在地	沖縄県うるま市安慶名362番地11		
自己評価作成日	平成24年10月5日	評価結果市町村受理日	平成25年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosvCd=4790300018-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成24年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・当事業所は、施設の理念を基本に(なじみの関係・その人らしく等)入居者中心のケアを心がけている。 ・職員個々のスキルアップを目的とし外部研修等へ参加できるよう取り組んでいる。 ・毎年、実践者研修に職員を派遣している、現在認知症実践者研修修了者が4名おり、認知症の方が「安心・安全」な中でケアを提供できる環境が整っている。 ・当事業所は、ゆとりをもって認知症ケアが提供できるよう、手厚い職員配置である、それにより入居者の希望に合わせた柔軟な対応ができる体制である。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は閑静な住宅地に位置し、地域に根ざした環境で運営がなされ、代表者の自宅も隣接している。理念に「住み慣れた地域での暮らしの継続性」を謳い実践している。管理者は県のグループホーム団体の役員を務め、キャラバンメイトとして地域で活躍し、また、今年は職員2名をキャラバンメイト養成に派遣する等、職員の資質向上に積極的に努めている。運営推進会議に他事業所職員を委嘱し情報を共有したり、毎月「ホームたより」を発行して家族や関係機関に送付し状況を発信する等、地域に根差した専門職として、質の高いサービスの提供に努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日：平成25年1月9日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・事業所の理念を玄関先、事務所内に掲示し周知を図っている。 ・職員会議・ケース会議等で事例を通して、再度理念を考え、共有し、統一したケアを行っている。	事業所の前身である宅老所の理念を継続しており、理念の内容を掘り下げた解説を加え玄関先や職員トイレに掲示し周知を図っている。管理者は職員会議等で、「ケアの基本は理念に立ち返ること」を事例を通して説明し、職員間で確認共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の自治会と連携が取れており、「地域敬老会・夏祭り」等に参加している。 ・避難訓練等、地域住民の参加がある。	代表者が自治会の元役員で、区長の出入りも頻繁にあり、地域の敬老会の準備に職員が参加する等、日常的に地域と交流している。学生の介護体験も積極的に受け入れている。また、管理者が認知症サポーター養成講座を公民館で開催し啓蒙に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域へ認知症の理解を広めるよう、サポーター養成講座を開催している。 ・今年度も、キャラバンメイト養成講座へ2名の職員の派遣を予定している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営会議では、日々の活動や、地域行事への参加、事故報告書の検証等、サービスの向上に活かされている。	会議は2か月に1回定期的に行われ、利用状況や事故報告、外部評価の結果報告、情報交換等が行われている。毎回行政職員の参加はあるが、家族の参加は少なく、また、利用者の参加は議事録で確認できなかった。	運営推進会議の構成員として法的に利用者や家族も位置づけられているので、会議へ利用者、家族の参加が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・うるま市役所へ毎月、グループホームたよりを送付している。また、研修等があれば案内し、協力関係を築いている。	役場へは毎月「ホームたより」を送付し、事業所の状況報告を行っている。管理者は県GH連絡会の役員で、福祉動向等の情報を役場担当者と共有している。看取りの実施に当たり医療機関の協力を得る方法について、話し合い等が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束防止マニュアルがあり、職員が拘束について理解できている。 ・職員会議で、ヒヤリハット・事故報告書等を定期的に検証する際、「身体拘束」とは…全職員が再度、考え拘束をしないケアを実践している。	マニュアルが整備され、身体拘束をしないケアについて職務会等で事例を通し確認し合っている。家族には拘束をしないケアのリスクについて説明し、理解を求めている。転倒予防のため、夜間のみ数名のベッドにセンサーを設置している。	

沖縄県（グループホーム喜楽）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・高齢者虐待防止マニュアルがあり、職員は、虐待について理解できている。 ・新人職員研修の際、高齢者の虐待等について話している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・管理者は、権利擁護推進員研修を受講済みである。現在権利擁護を活用するケースは、ない。 ・権利擁護が必要と考えられる入居者様には、契約時、説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約の締結・解約・改訂等があった際は、前もって書面で報告し、個別で説明を行い十分な話し合いを行い、書面で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・玄関先に苦情受付箱を設置している、また、苦情が記入しやすいよう入居者個々の部屋に記入用紙も準備している。 ・運営会議に、家族代表も参加されており、外部者へ表せる機会がある。	利用者からは日々のケアの中で意見を聞いており、家族からは面会時や推進会議等で意見を聞く機会を設けている。また、家族が参加するビーチパーティや忘年会等の行事、毎月のホームたよりの送付等に努めているが、家族から運営に反映する意見は殆どない。	意見や要望等が言いやすい環境作りの工夫に努められたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・管理者は、職員の意見や改善事項等の要望が汲み取れるよう日々心がけている、改善事項等があれば、代表者と情報交換し即、対応できる体制である。	管理者は毎月の職員会議や年1回の個別面談で意見を聞く機会としている。職員の要望で今年2台の介護ベッドが設置され、介助しやすい環境が整備された。利用者との馴染みの関係を重視し、法人内異動は最小限に止める方針がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・管理者は、毎年「OJT」を行い、職員の質の向上を図っている。代表者は、OJTを基に職員の個々の意欲や、能力を見極め処遇の改善等を行い、働きやすい職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・代表者は、職員の個々の能力を把握しており、管理者と情報の共有ができている、個々の能力に合わせた、社内外研修へ積極的に参加できるような環境である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・沖縄県グループホーム連絡会に加入 ・うるま市内グループホームとの情報交換及び情報の共有ができています。 ・社外研修等を通して、他ホームとのネットワーク作りができています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・利用者本人の主張を傾聴しコミュニケーションを図り、利用者と共に活動等を行う中で、信頼関係を築き接するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族が困っていることなど、要望等に耳を傾けるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・生活環境全般を把握し、先入観を持たず、視野を広く持ち、必要とされている、支援を見極めるよう努めている。 ・必要に応じて、他のサービス情報を提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者個々を理解することで、支え合うことができる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・利用者の情報を共有し、連携を図ることで、職員家族と共に、利用者を支えていくことができる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの人、サークル、地域との関係が途切れないよう、家族・友人・地域と協力して支援に取り組んでいる。	利用前からのサークル活動(大正琴、カラオケ)や空家になった自宅の風通しや法事、耕作していた畑等に職員が同行し支援している。生活歴等を近所の方や行事等で出会う旧友、面会者等から聴くこともあり、家族からは得られない若い頃の情報を得ることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・共同生活の中で、孤立しないよう、常に心がけ、声かけ等を行い支援している。 ・利用者同士が、楽しく関わりあえる環境を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約が終了しても、いつでも相談の窓口になることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人・家族・関係者から、聞き取りを行い、希望や、意向の把握に努めている。 ・今までの生活歴を踏まえ、本人の希望や意向の把握に努めている。	日々の関わりの中で利用者の意向を聞くようにしており、事業所の方針とし「〇〇していいですか」という語尾に「か」をつけることを心がけている。職員は担当制で対応し、意思表示が困難な利用者と密に関わることで理解を深めるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人や家族、これまで利用していた、サービス事業所からの情報を基に、これまでの生活を振り返り、これまでの経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・入居者個々の観察、職員間での情報の共有を行うことで、現状の把握ができています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・職員で個々の担当を決め、月に1回のモニタリングを行い、評価や新たなニーズを見出し、本人、家族と話し合い、計画書の原案を作成している。	毎月のモニタリングは介護支援専門員と担当職員で行い、担当者会議には利用者や家族が参加し、介護計画を策定している。また、毎月のカンファレンスには全職員参加し、事例検討を実施している。介護計画は更新時と随時に見直されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護日誌、サービス実施記録等により、利用者個々の状態を把握している。また職員間で情報を共有することで、問題点や改善点の見直しに活かされている。		

沖縄県（グループホーム喜楽）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・病院受診等、ご家族の対応が困難な場合は、事業所で対応し、支援することもある。 ・様々なニーズに対応できるよう、他サービス(歯科・訪問マッサージ)等柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・出身地のサークル活動(大正琴・カラオケ)等への参加を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・当ホームは、月2回訪問診療を行っているが、契約時に、本人・ご家族の意向を尊重し、かかりつけ医を選んでいただいている、またスムーズな受診ができるよう、必要に応じて(車椅子)送迎・付き添いの支援を行っている。	利用者は希望するかかりつけ医で受診している。受診時は家族に情報提供書を持参させ、必要に応じて管理者も同行し送迎支援が行われている。利用者の状態変化時には、協力医に直接電話で相談し対応してもらう等、日常的に連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・当ホームは、専従の看護師を配置している、協力医療機関と情報交換を積極的に行っており、入居者の日々の変化に対応できる体制である。 ・介護職との情報交換、申し送り等もスムーズにできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入退院時は、ご家族・医療相談員等との情報交換を行っている。 ・協力医療機関との連携ができている。 ・入院時も、面会等を行い、情報交換や情報の共有ができている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・契約時に、重度化や終末期の説明を行っている、重度化・終末期時には、担当医を中心に、ご家族・関係機関・事業所で、対応方法や方向性を確認し、ケアができる体制である。	「重度化、看取りに関する指針」が作成されている。管理者は事業所で看取る方針で、職員研修も行われ意思統一が図られているが実例はない。家族には段階的に意向を確認し、最終的には看取りの場は家族に選択をゆだねる方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時マニュアル・事故発生時マニュアル等がある、緊急時の対応方法等について、職員会議や、ミーティングの場で、共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回は、避難訓練を開催している。 ・そのうち1回は、地域住民の参加もある。 ・11月5日に、うるま市全域、津波・地震避難訓練があり自主参加する予定である。 	消防署立ち会いで、地域住民も参加し隣接する同法人通所との合同訓練や、市防災避難訓練に合わせ防災対処法等の自衛防災訓練を2回実施している。災害時対応マニュアルが整備され、緊急自動通報装置、屋外非常ベル等の防災設備が完備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の理念を基に、全職員がパーソンセンタードケアを目標にケアに取り組んでいる。 	玄関や職員トイレに「倫理規定」や「職員規範」を掲示され、職員は、「一人ひとりの人格を尊重」することを念頭に置き、利用者の意思確認をしながら自己決定を促している。プライバシー保護の観点から利用者の個人台帳は鍵のかかる書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の皆様が、自己決定しやすいよう、言葉の語尾は「…か」で終わるよう、職員へ徹底している。 ・また、行事への参加、ドライブ等、利用者へ参加の有無を確認し自己決定できる環境である。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・当ホームでは、1日のスケジュールは決まっておらず、入居者の希望に即対応できるよう、取り組んでいる。 ・買い物・ドライブ・外食等に対応できる手厚い職員配置を行っている。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴前、外出時には、入居者が、好みの洋服を選択できるよう声かけを行っている。 ・地域の散髪ボランティアが定期的に訪問し、整髪していただいている。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の準備、片付け、買い物等、入居者ができる部分(残存能力)を活用できるよう支援している。 ・外食、野外でのおやつ等、食事を楽しむことができるような支援を行っています。 	3食とも事業所内で調理され、利用者も職員と一緒に買い物や食器洗い等を行っている。利用者の嗜好に合わせてパン食を提供したり、居室やソファ等の好みの場所で摂ったり、時間帯をずらす等、本人の意向に沿って柔軟に対応している。職員も一緒に同じものを食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の食事摂取量等は、チェック表を使い把握している、食事量の低下、水分摂取量の低下等があれば、看護師、Drと情報を共有し支援している。 ・入居者の状態に合わせ、食事形態の変更や、器の工夫、補助具の使用等行い支援している。 		

沖縄県（グループホーム喜楽）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・口腔ケアは、毎食後行っている、入居者個々の状態に合わせたケアを提供している。 ・毎食後の口腔ケアで、異常、変化等があれば、看護師から協力歯科医院への情報提供等、連携が図れている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・入居者全員の24時間排泄チェック表を活用し自立に向けた、取り組みを行っている。 ・認知症状の進行、ADLの低下等が著明で、自主排泄が困難になった際は、ケース会議を持ち、すぐオムツではなく、他の支援方法を検討するようにしている。	職員間で、「尿パット使用が常習化しないように」「排せつ記録の徹底」等、会議で周知確認している。利用者のパターンを把握し、トイレ排せつの適宜の誘導を行い、リハビリパンツから綿パンツへ移行した利用者もいる。夜間も8人の利用者をトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・食事の際は、できるだけ「ヨーグルト・牛乳・豆乳」を提供するようしている。また、食事前の全体操や、個別でのリハを行い予防に取り組んでいる。 ・必要に応じて、看護師、Drへ情報提供し、指示を仰ぎ、支援できる体制である。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・ある程度の入浴日は設定しているが、本人の希望があれば、副うように支援している。 ・現在、本人の希望で、毎日入浴されているかたもいらっしゃる。	週2、3回の入浴が基本だが、本人の希望により洗濯をしながら毎朝2時間程入浴する利用者もいる。入浴日以外は足浴や清拭を行い、入浴を嫌がる利用者の場合は、日をあらためて対応している。女性利用者は同性介助を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・入居者個々の状態に合わせ、安眠や、休息を行っている、1日の生活リズムを整えるよう、日中役割を持たせ(洗濯たたみ・食事作り)等を促し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の作用等は、ケース記録で確認できる状況である、内服薬の変更等があれば、ナースより申し送りがあり、全職員で共有できている。 ・また、必要に応じて、症状の変化があれば、看護師へ報告、相談できる体制である。 ・受診時に情報提供書作成し持たせ、主治医との情報の共有を行い支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・入居者様の、今までの生活歴を鑑み、趣味・嗜好を活かせるよう支援している。 (庭いじり・洗濯物たたみ等)		

沖縄県（グループホーム喜楽）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・入居者の希望があれば、外出はいつでも対応している（買い物・ドライブ・サークル活動）等。 ・地域の自治会とも協力しながら、「夏まつり」へ参加している。	利用者にアンケートで行き先の希望を聞きながら、鯉のぼりの見物や海底道路等へドライブし、気分転換を図っている。利用者の希望により、散歩等は日常的に対応している。また、ホームセンターに個人の買い物出かけた後、家族の経営している店に出かける等、個別支援も行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・自ら管理できる入居者様は、普段の買い物、ドライブ時の小遣い等、所持金を自由に使えるよう支援している。 ・また、自己管理ができない方は、出納帳をつくりホームで管理し、本人が必要な時に、渡すなどの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望があれば、いつでも電話が使用できる状態である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫を	・入居者が、落ち着いた雰囲気でも過ごせるよう飾り付け等はあまり行っていない。 ・当ホームは、規模が小さく「家庭的な雰囲気」である。毎食手作りの食事を提供している中で、（匂い等）、五感を感じられるよう工夫している。	共用空間の居間や廊下は、明るさや通気等に配慮がされ、居間のソファを利用者に適した高さの物を新たに購入している。また、脱衣所等の収納棚にカーテンを取り付け整然としており、居心地良い共有空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ホームのハード面で多少の難はあるが、共有スペースのソファを移動したり、食卓の配置の変更等、居心地のよい空間を創るよう取り組んでいる。 ・ウッドデッキを創り、入居者様がくつろげる場を設けた。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時、本人・家族様へ、ご自宅でなじみの家具や使い慣れた物を持参しても構わないと事前に説明している。 ・居室等も、本人の希望があれば、模様替えや、アレンジができるよう支援している。	各居室の入り口には暖簾がかけられ、室内のオムツ等は中が見えない工夫をする等、プライバシーに配慮している。居室内に電気スタンドが設置され、適度な明るさのもと、夜間のトイレ誘導が行われている。私物の品の持ち込みが認められ、それぞれの好みのレイアウトで過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・入居者個々ADLに合わせた、環境作り、居室の位置、ベットの位置、ポータブルの位置等を、検討し、できるだけ、自立に向けた支援ができるよう取り組んでいる。 ・自分の居室、トイレがわかりやすいよう、表示を工夫している。		